

# \* 深よみめんこちゃん \*

深堀保育園で過ごすめんこちゃん達。今回は、りす組とぱんだ組のクラスからよみ解き、深堀していきます。

## ～りす組～ 「はけた！はけた！」

指先が使えるようになってきた子ども達は、ズボンや靴下などの着脱に積極的に取り組んでいます。まだ、一人では上手くいかないことも多いようですが、自分でやりたいという気持ちも少しずつ増え、「やって」「ここ、できないねえ」「できた！」などと手伝って欲しいことや上手くできたことを自分なりの言葉で伝えてくれます。保育者に手伝ってもらいながら自分でできたことを喜ぶ姿を見て、改めて一人一人に合わせた声かけや見守りの大切さを感じ、子ども達の頑張りと一緒に喜んだり、できるところまで時間を設けて取り組んだりすることで、子ども達の満足感や「やってみたい」という興味に繋がるようにしています。



こんなふうに育ててほしいなあ・・・！  
自分でやってみようとする気持ち  
が、どんどん膨らんでいくと  
いいなあ！

## ～ぱんだ組～ 「鬼は外」

節分の季節が近づいてきたある日「♪おにはそと～ふくはうち～」と保育士が歌っているのを聞いた子どもが小さいブロックを投げて遊びはじめました。「ブロックはお友達に当たると痛いから新聞紙ボールを作って遊ぼう！」と、的になる大きな鬼を担当が描くと子ども達がクレヨンで塗り完成しました。その絵を壁に貼り「この鬼をやっつけよう！」と手作り豆を投げて遊んでいると、興味をもった友達も集まって豆を投げ、退治しました。鬼の絵の下に長いセロハンテープを貼って手作り豆を吊り下げ、その豆に当たったら勝ちというゲームに難度を加えて展開し、次の日も的当てゲームを楽しみました。

子ども達の中でルールを決め遊ぶ姿から、ルールを理解し友達と遊び、楽しんでいると感じました。子ども達の発想力を引き出せるよう、発言や遊びへの興味に寄り添い、環境を整えていきたいです。



こんなふうに育ててほしいなあ・・・！  
感じたことや考えたことを自分なりに試す楽しみを味わってほしいなあ！